

ぱり」それは違うぞ」と言おう。山下さんには、少なくともここでは、「自分のしたい話」なんてない。ようにわたしには見える。投げかけられたものにこの人体がどう反応するのか、その動いていくさまをただいっと見ている。それを書きとめる。それだけ。役に立つ答えをさずけてあげたいとかあけなくちゃとか、そういうのがまったくない。答えて、って言われたから仕方なく答えてるけど、そう頼んでくる人がいなかったら山下さんは100%書いてない。でも引きつけちゃったんだもん。

山下さんが「わたしがこんなに一生懸命答えてあげたのに！」とか言い出すい配がまったくないから、質問者は安心して投げかけることができる。質問してる人たちは比自ノリノリで好きなことを書いてたのしそうだ。この本の中でいちばん困ってるのはどう見ても山下さんで、むしろ山下さんただ一人がきよんとして途方に暮れている。べつに途方には暮れてないかもしれないけど、圧倒的にサイズが合っていない。用意されたイスと山下さんのからだのサイズが合っていないから、無理くり座っている。それでも山下さんにとってはただ「サイズが合っていないな、」というだけのこと、気が向いたら座って、投げかけられたものを見て、反応から生まれる動きを

じっと見て、ことばにして書く。ときどきそれをし続けていたら、いつの間にか一冊の本になった。きっと本になってもなうなくても山下さんのすることは変わらないう。質問コーナーが更新されるたびにわたしは、この人の現役時代に居合わせることができてラッキーだな、となっていたし、本になったものを読み終わった今も同じだ。

へたぶん後編も書く✓

よしのももこ「おれに聞くの？」を読んだ」前編

2023年5月27日